

		センター試験（大学入試英語成績提供システム）の品質	検定試験・大学入試*の品質 *多くの私立大学では従来型の英検を入試に活用し、大学独自で定めた合格ラインとして英検CSEスコアを提示しています。	模擬試験の品質
英検協会のサービス	英検協会のテスト例	実用英語技能検定 ・英検CBT ・英検2020 2 days S-Interview（詳細検討中） ・英検2020 1 day S-CBT（詳細検討中）	実用英語技能検定（従来型）	英検IBA
	英検協会での料金帯域例（2018時点）	5 8 0 0 円～1 6 5 0 0 円	3 4 0 0 円～8 4 0 0 円	5 0 0 円～3 0 0 0 円
作問品質	問題アイテムの品質	サンプルテストと膨大な過去の類似テストアイテムとの蓄積を利用し、テストアイテムのレベル、品質を確保している。	サンプルテストと膨大な過去の類似テストアイテムとの蓄積を利用し、テストアイテムのレベル、品質を確保している。	膨大な過去の検定試験のテストアイテムの蓄積を再利用し、テストアイテムのレベル、品質を確保している。
	問題セットと測定帯域の設計方針	CEFRの境目は1点刻みである前提であるので、定められた帯域で正確に測定できるように狭い範囲で集約的に各問題の難易度を揃えて出題する。必然的に同じ問題セットで限られた時間において測定できる能力幅は狭くなる（例；級別の問題セットの測定幅は狭い）。 (CEFR対照表へのリンク)	検定合格判定は1点刻みである前提であるので、定められた帯域で正確に測定できるように狭い範囲で集約的に各問題の難易度を揃えて出題する。必然的に同じ問題セットで限られた時間において正確に合格判定できる能力幅は狭くなる。また、CSEスコアはゼロ点から満点まで幅広く提供されるため、次に受検する級の指標として活用できる。 →「英検CSEスコアのご紹介」 https://www.eiken.or.jp/cse/	1点刻みの判定ではなく、ある程度能力の範囲を確認するための試験なので、ある程度の幅をもった難易度の問題を出題する。限られた時間でも1つの問題セットである程度幅広い能力を測れる。（例：Aセット～Fセット）。 →「英検IBA」 http://www.eiken.or.jp/eiken-iba/
	同じ問題セットの使用期間	午前・午後でも違う問題セットを使用する（問題漏洩の可能性を完全排除）	実施曜日に応じて違う問題セットを使用する（問題漏洩の可能性を完全排除）	複数日・午前・午後かわらず同じ問題セットを繰り返し活用することを可とする
会場・実施品質	会場品質	協会が責任を持つ。規定で品質管理された公開会場であること。大学入試なら大学で実施されることが望ましい。	協会が品質責任を持つ。規定で品質管理された公開会場又は認定され規定で品質管理された準会場（学校・塾など）。	申し込み団体で責任を持つ。実施場所は問わない（主に学校・塾など）。
	実施委員品質	協会が品質責任を持つ。規定とトレーニングを通し品質管理された実施委員が実施運営する。受験者の所属学校の関係者は実施委員はできない。	協会が品質責任を持つ。規定とトレーニングを通し品質管理された実施委員が実施運営する。	申し込み団体で責任を持つ。（主に学校・塾など）
	監督者品質	協会が品質責任を持つ。規定とトレーニングを通し品質管理された実施委員が実施運営する。受験者の所属学校の関係者は監督者はできない。	協会が品質責任を持つ。規定とトレーニングを通し品質管理された監督者が実施運営する。	申し込み団体で責任を持つ。（主に学校・塾など）
	スピーキングテスト	CBT又は面接者による対面式。面接者は協会のトレーニングと認定を受けた面接者が面接実施する。受験者の所属学校の関係者は面接者はできない。	CBT又は面接者による対面式。面接者は協会のトレーニングと認定を受けた面接者が面接実施する。	CBTで実施。
	問題用紙・回答用紙・CBT機器の配布回収	協会関係者又は協会が品質責任を持つ。規定とトレーニングを通し品質管理された実施委員・監督者が問題用紙・回答用紙・CBT機器の配布回収をする。	協会関係者又は協会が品質責任を持つ。規定とトレーニングを通し品質管理された実施委員・監督者が問題用紙・回答用紙・CBT機器の配布回収をする。	申し込み団体（主に学校・塾など）で責任を持って問題用紙・回答用紙・CBT機器の配布回収をする。
測定技能と測定品質	測定技能	1回の試験で4技能を測定。	4技能を一次試験と二次試験に分けて測定。一次試験（RLW）での合格者が二次試験Sに進める。 *英検CSEスコアの導入により、入試を控える受験者は志望校の出願資格と自身のスコアを照合し、可否を意識しながら受験級を決定するケースが多い。	基本はRLの2技能。ニーズに応じてWSは今後提供開始予定。
	測定品質	過去の膨大な試験結果データとIRTを活用し異なる問題セットの受験者の英語能力を精度高く共通のスケールで測定している。	過去の膨大な試験結果データとIRTを活用し異なる問題セットの受験者の英語能力を精度高く共通のスケールで測定している。	膨大な過去の検定試験のデータ蓄積を再利用し、スコア（級）判定測定レベル品質を確保している。
活用	入試での活用	センター試験（大学入試英語成績提供システム：外部試験利用型）	国公立、私立の中学校～大学の一般入試、AO入試、推薦入試などに幅広く活用されている。	私立の中学校～大学のAO入試、推薦入試、一般的な調査書（内申書）の根拠などに今後活用される予定。
	実用英語能力測定での活用	N/A	行政（自治体別の教員・学生の英語能力の指標）の他、多くの自治体・学校・企業・塾などと個人単位で活用されている。	多くの自治体（県単位・政令指定都市単位・市区町村単位）・学校（小・中・高・大）で団体全員の能力判定を目的に活用されている。